

平成23年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A2	取組 名称	丹後・丹波の街道と信仰の歴史―宮津市を中心に―
研究代表者:	文 学部 (研究科)	職・氏名:	准教授・上杉和央
研究担当者:	京都府立大学 (井上直樹、上田純一、川瀬貴也、東昇、菱田哲郎) 外部分担者・協力者 (吹田直子氏、山田洋一氏 ほか)		
主な連携機関 (所在市町村、機関 (部署) 名)	京都府宮津市教育委員会、京都府丹後郷土資料館、京都府立総合資料館 など		
【研究活動の要約】			
研究は大きく2つの柱で実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・信仰について 研究担当者それぞれが、文献史料やモノ資料を検討して、天橋立や関連する宗教遺産についての検討を行いました。 ・街道について 2011年9月と2012月に現地調査を行い、街道の景観調査と街道沿いの石造物調査を行いました。また、江戸時代の道中記について、翻刻と分析を行いました。 			
【研究活動の成果】			
宮津市域府中地区には、集落を結ぶ旧街道のほか、平地部から西国三十三所観音巡礼第28番札所成相寺に至るいくつかの山道 (参道) があります。また天橋立も重要な「道」となっています。本 ACTR は上記のように2つの柱出研究を推進しましたが、そのうちの街道班の現地調査では、これらの街道を踏査し、眺望や景観を調査するとともに、街道沿いにどのような石造物が存在するかを調査しました。 <p>たとえば、府中地区と成相寺を結ぶ「本坂道」の場合、調査時 (9月) は草木が生い茂り、通行は困難な状況で、街道から天橋立を見ることもほぼ不可能でした。実は、江戸時代の貝原益軒がこの道から見た天橋立を評して「日本三景というのもうなずける」と述べています。「日本三景」が固定化されるのはこの頃だとされていますので、本坂道からの景色こそ「日本三景・天橋立」の原点ともいえるのですが、そのような資産が現在は (まさに) 埋もれていることが分かりました。</p> また、本坂道は距離を示す町石や板碑などの石造物が多数残されており、今回、これら地域文化遺産の記録を取りました。今後の地域を考える上での基礎資料となることを期待します。			
【研究成果の還元】			
(関連報告) <p>H23/8/25 上杉和央「古道研究の現在」 みやづ歴史の館 (平成23年度両丹文化財保護連絡協議会にて報告)</p> <p>H24/2/5 上杉和央「府中の古道と石造物」 宮津市府中地区公民館 (宮津市文化的景観フォーラムにて報告)</p> (報告書) <p>『京都府立大学文化遺産叢書第5集 丹後・宮津の街道と信仰』(H24/3 未刊。府大図書館・府内主要図書館で閲覧可)</p>			
【お問い合わせ先】			
文 学部 (研究科)		准教授・上杉和央	
Tel: 075-703-5278		E-mail: kuesugi@kpu.ac.jp	

参考 (イメージ図、活動写真等)

2011年9月の現地調査風景



2012年2月の現地調査風景

